

# 自由が丘産能短期大学

平成18年度第三者評価  
機関別評価結果

平成19年3月22日

財団法人 短期大学基準協会

## 自由が丘産能短期大学の概要

設置者	学校法人 産業能率大学
理事長	上野 俊一
学 長	森脇 道子
A L O	奥村 憲
開設年月日	昭和25年4月1日
所在地	東京都世田谷区等々力6 -3 9 -1 5

### 設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
能率科第 部		380
能率科第 部		120
	合計	500

### 専攻科および入学定員(募集停止を除く)

なし

### 通信教育および入学定員(募集停止を除く)

学科	入学定員
能率科	1500
	合計 1500

## 機関別評価結果

自由が丘産能短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成19年3月22日付で適格と認める。

## 機関別評価結果の事由

### 1. 総評

平成17年7月27日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

大正14年日本産業能率研究所の設立以来、今日に至るまで創立者の思想と精神は、あらゆる手段と場面において明確に示されており、これの点検と共通理解に向けての努力が意欲的に実行されており、適切であると判断できる。

教養科目は、全体で62科目が置かれており、短期大学の平均的内容からするとかなり充実している。2年次には「課題実践科目」が配置され、教養科目群、専門科目群ともに統合的・系統的な教育課程が編成されている。

専任教員数は短期大学設置基準を充たしており、相互に協力しながら授業改善に努め、学生指導にもあたっている。校地面積は短期大学設置基準を大きく上回り、専門教育を円滑に行うためのネットワーク環境、障害者対応にも配慮した教育環境整備がなされている。図書館蔵書数、学術雑誌種数、座席数なども充実しており、図書館サービス体制や、学内外への情報発信なども活発に行われている。

教育職勤務マニュアルや兼任教員マニュアルが用意され、適切な単位認定の徹底が行われている。また独自のグレード・ポイント・アベレージ(GPA)制度を導入し、きめ細やかな教育が目指されている。また、学生による授業評価においても高い水準の満足度を確認することができるように、教育目標の達成に向けた一連の取組みが成果をあげているものといえる。授業評価や学生満足度調査などの調査結果は、積極的にファカルティ・ディベロップメント(FD)活動にも利用され、結果や問題意識の共有が図られている

昼・夜間に学ぶ多様な学生に対して、大学の求める学生像、育てる学生像を明確に示したうえで、学習・学生生活、進路などについて、アカデミックアドバイザーを中心に支援システムとフォローの体制を教職員が一体となって作り上げている。また、学生スタッフによる学生自身の活動を人間的成長を実現する取組みと位置づけ、積極的に評価している。

卒業生や卒業生を受け入れている企業、団体からの意見聴取でも評価を得ている。

研究業績と教育業績は、教育に直結する授業開発などを積極的に推進するなど十分な活動が展開されていると判断できる。

授業の「課題実践科目」、学生ボランティア活動の「産能スチューデントスタッフ」が、学生による社会的活動を促しており、短期大学もまた地域支援や地域講座開設のシステムを設定して地域との連携に取組み、それぞれ成果を残している。訪問調査時には、平成18年度から平成19年度にかけて5名程度の専任教員を増加する予定があるとの表明があり、教育・研究に加えて地域貢献の点でも高等教育機関としての機能を拡充できるとの説明もあった。

管理運営については、組織、規程類、運営など全ての面において万全である。学内教職員専用のネットワーク網が完備され、情報伝達においても遺漏の無いよう整備され、情報管理、防災・防犯対策なども充分である。

短期大学としても第 部に関しては、安定的な学生確保がなされており、財務体質の健全さを保っている。

自己点検・評価活動に関しては学則に明確に定めるとともに、自己点検・評価および第三者評価委員会規程に基づき、常勤理事会の諮問機関として学長を委員長とした委員会が組織され、報告書が作成されることによって多くの教職員が点検・評価活動に参画する体制が整えられている。

## 2. 優れていると判断される事項など

### (1) 優れていると判断される事項

評価領域 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

「現代マネジメント」(必修科目)において建学の精神の理解と周知を図っている。また教職員に対しては各種マニュアルなどによって徹底を図っている。

評価領域 教育の内容

専門科目において、コミュニケーションやプレゼンテーション能力を養うことが重視されている。教養教育の充実、特に学習の基礎に力点が置かれている。カリキュラム内容全体が、学生ニーズに広く応えられる内容になっている。3年に1度の授業参観などFD・SD委員会は活発に活動している。さらに授業改善に対する積極的な取組みに優れた点を見いだせる。

評価領域 教育の実施体制

学内全域に優れたネットワーク環境が完備されている。

評価領域 教育目標の達成度と教育の効果

平成15年、平成16年の文部科学省の特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）に採択されているとおり、学生の主体的参加を強く感じる取組みが多くあり、満足度や目標の達成にも寄与しているものと思われる。

評価領域 学生支援

当該短期大学の取組みは、特色GPとして「タテよこ交流に始まる学内サービス学習支援」など2本が採択されており、その面でも外部からの高い評価と永年にわたる実績があると解される。

評価領域 社会的活動

学園に付属する総合研究所との提携および学生の社会的活動に対しては「GSP（ゴールデン・スプーン・プライズ）制度」に基づく活動成果の表彰を通じて奨励と定着をはかっている。

評価領域 管理運営

ワーキンググループ活動による教員と職員が協働しての課題解決の実践は、教職員のコミュニケーションをシステムとして確立している。  
プライバシーマーク取得に見られる進取の姿勢は、個人情報保護の観点だけでなく、あらゆる業務遂行において先進的に取り組む姿勢と適度な緊張感を持たせていると感じられる。

評価領域 財務

財務情報をウェブサイト上に公開し、解説を付して理解しやすい内容としている。

評価領域 改革・改善

平成5年度より、毎年自己点検・評価報告書を作成し公表している。

(2) 向上・充実のための課題

なし

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

## 領域別評価結果

評価領域		評価結果
評価領域	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域	教育の内容	合
評価領域	教育の実施体制	合
評価領域	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域	学生支援	合
評価領域	研究	合
評価領域	社会的活動	合
評価領域	管理運営	合
評価領域	財務	合
評価領域	改革・改善	合

### 評価領域 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

創立者上野陽一の「能率」の思想を建学の精神とし、その実践の理論体系に基づき、実社会に貢献する人材の育成を使命とすることを教育理念として確立している。

建学の精神、教育理念に基づく教育目的が学則第1条に明確に定められており、自己点検・評価活動により定期的に点検の努力が行われている。

学生に対しては、入学時のオリエンテーションにおいて説明をし、学生便覧に掲載し周知を図っている。教職員に対しては、SD・FD研修会において共通の理解を深めるための努力が行われている。

大正14年日本産業能率研究所の設立以来、今日に至るまで創立者の思想と精神は、あらゆる手段と場面において明確に示されており、これの点検と共通理解に向けての努力が意欲的に実行されており、適切であると判断できる。

### 評価領域 教育の内容

教育課程には、教育目標の実現に対応した4領域に基づく科目が配置されている。教養科目は、4領域から構成され、専門科目はコースの特徴が明確であり、十分な選択科目が配置されている。実学に重点をおいた適切なレベルでの授業が展開されている。司書取得のための配慮、ほかの資格支援の科目が自由科目として実施されている。講義、演習、実習科目がバランス良く構成されており、四つの卒業要件が、学生に理解しやすい表現で提示され、またアカデミックアドバイザーによる履修相談も適切に受けられるようになっている。

シラバスは年度開始時に配布され、ガイダンスにおいても使い方の指導がなされその内容に関しても、担当教員、学習目標、授業の形態、授業の進め方、前提知識、単位認定条件、定期試験、テキスト、授業スケジュールが詳細に説明されている。

各期に、学生による授業評価が実施され、その結果は各教員にフィードバックされ、改善のために活用されている。また、授業改善のための目標設定、振り返りなどの仕組みが用意されている。同一科目を複数の教員で担当する場合、「科目主務者」を置き、科目間調整、ミーティング、授業結果報告書などによる振り返りが効果的に行われている。さらにFD活動には、予算化がなされ、スタッフ・ディベロップメント(SD)活動とともに密接に連携して実施されている。

教養科目は、全体で62科目が置かれており、充実している。2年次には課題実践科目が配置され、教養科目群、専門科目群とともに統合的・系統的な教育課程が編成されている。

#### 評価領域 教育の実施体制

「科目主務者」の設置、科目間調整など責任体制が整備されている。

情報機器が自由に使いこなせるように、全教室にネットワーク環境が整備されている。専任教員は短期大学設置基準を充たしており、相互に協力しながら授業改善に努め、学生指導にもあたっている。校地面積は短期大学設置基準を大きく上回り、専門教育を円滑に行うためのネットワーク環境、障害者対応にも配慮した教育環境整備がなされている。図書館蔵書数、学術雑誌種数、座席数なども、短期大学図書館として充実している。図書館サービス体制および学内外への情報発信なども活発に行われている。

#### 評価領域 教育目標の達成度と教育の効果

教育目標を達成するために、学生に対する指針の明示に加え、教育職員に対する作問・成績評価のガイドラインが設けられ実施体制が確保されている。また、積極的なFD活動が展開され、その報告書はウェブサイト上でも公開されている。

高い就職率を誇る点は、当該短期大学の教育における結実の1つとして確認することができる。また、卒業生、就職先、編入学先からの意見聴取も行われており、それらの結果についての検討も行われている。

教育職務マニュアルや兼任教員マニュアルが用意され、適切な単位認定の徹底が行われている。また独自のGPA制度を導入し、アカデミックアドバイザーの指導によるきめ細やかな教育が目指されている。また、学生による授業評価においても高い水準の満足度を確認することができるように、教育目標の達成に向けた一連の取り組みが成果をあげているものといえる。授業評価や学生満足度調査などの調査結果は、積極

的にFD活動にも利用され、結果や問題意識の共有が図られている。

#### 評価領域 学生支援

短期大学の求める学生像を明確に示し、学生募集と選抜が行われている。入学予定者には入学事前教育、ガイダンスが実施され、「生徒」から「学生」への移行がスムーズに進行するよう配慮されている。

アカデミックアドバイザー制度に加え学生の品質保証ともいうべきGPA制度が平成17年度に導入され、学生に対する支援と評価の体制が確立している。基礎学力が不足する学生には学力の向上、情報処理能力を高めるためには必要な科目群が用意され、進度の速い学生には上位資格をめざすことを奨励するため、学生委員会キャリア支援専門委員会が対策講座や個別支援を行っている。組織的な取組みのうえに成果を残している。

学生総合サービスセンターが学生生活支援の窓口として一元化され、明瞭なシステムのもとで、学生のキャリアアップがはかられている。「産能スチューデントスタッフ」による「学生による学内サービス活動」が真に特徴的な取組みであり、参加する学生自身にとっても研修の機会となっている。メンタルヘルス、障害者への配慮について設備、人的配置の両面で整備されている。

職業サポートセンターが中心になり、アカデミックアドバイザーと提携しながら高い就職率を達成している。

社会人、通信制学生、留学生や障害をもつ学生を受け入れ、円滑な履修が実現するように配慮されている。

昼・夜間に学ぶ多様な学生に対して、大学の求める学生像、育てる学生像を明確に示したうえで、学習・学生生活、進路などについて、アカデミックアドバイザーを中心に支援システムとフォローの体制を教職員が一体となって作り上げている。また、学生スタッフによる学生自身の活動を、人間的成長を実現する取組みと位置づけ積極的に評価している。卒業生や卒業生を受け入れている企業、団体からの意見聴取でも評価を得ている。

#### 評価領域 研究

専任教員過去3年間の研究は積極的に展開されている。また、同期間において、科学研究費補助金の採択はないものの、平成15、16年と文部科学省の特色GPに採択されているように、教育改革に向けた研究活動が展開されている。

個人研究費に加え共同研究にかかる研究助成制度が整備されている。また、個人研究室の確保と同時に、共同研究・交流活動を推進するためのコラボレーションエリアを



設置するなど、当該短期大学の教育・研究方針に合った体制が整備されている。

#### 評価領域 社会的活動

短期大学が拠点を置く「自由が丘」の地域性を十分に意識し、学園に附属する総合研究所と提携し、学生も教職員も地域連携に参加している点に特徴がある。その結果、各種審議会や地域プロジェクトに参加実績があり、地域むけ講座を開設するなどの取組みがある。学内では地域支援グループおよび地域公開講座グループが組織され、社会的取組みを推進する中軸となっている。

「産能スチューデントスタッフ」活動を通じた学生のキャンパス内ボランティア活動に加えて、ゼミに相当する「課題実践科目」を通じて地域調査、地域計画の立案にも学生が参加する積極的な面がある。学生の社会的活動に対しては、GSPによる活動成果の表彰制度を設定し、奨励と定着がはかられている。授業の「課題実践科目」、学生ボランティア活動の「産能スチューデントスタッフ」が、学生による社会的活動を促しており、短期大学もまた地域支援や地域講座開設のシステムを設定して地域との連携に取組み、それぞれ成果を残している。

#### 評価領域 管理運営

理事会は学校法人の意思決定機関として適切に運営されている。この学校法人の常務に関する事項は、常勤理事会を置いており、常勤理事会についての細目も規程に定めである。今回、理事長ならびに常勤理事は終始出席していた。理事間のコミュニケーションも良好で、管理運営体制は確立しているといえる。

学長のリーダーシップの下、短期大学の運営組織が、確立されている。学長諮問委員会ならびに教授会専門委員会が組織され、それらの下に、多くのワーキンググループが組織され、教員、事務職員が協働して課題解決にあたる体制は、教職員間のコミュニケーションを一層高め、短期大学に活性化をもたらす要因になっていると思われる。第 部、第 部と昼夜にわたる学生対応に関しても支援組織が確立されており、学生からの事務職員に対する評価が高い。職員の大学運営に係わるワーキンググループへの業務を超えた参画やSD研修の計画的実施は、職務の高度化に対応していると思われる。

「教育職勤務マニュアル」、「新入職員のしおり」に象徴されるとおり、産能職員としての行動規範が、適格に示されている。Plan-Do-Seeサイクルが、全ての面において実施され、その成果に対する反映も適切に評価されている。

管理運営については、組織、規程類、運営など全ての面において万全である。情報伝達においても遺漏の無いよう学内教職員専用のネットワーク網が完備され、情報管理、

防災・防犯対策なども充分である。

#### 評価領域 財務

平成17年より平成21年度までの中期経営計画が策定され、それに基づいた経営ビジョンを考慮した予算編成が、評議員会、理事会、監事の関与を経て決定され、執行されている。公認会計士の監査についても、月1回定期的に行われている。

予算の執行状況については、月次毎に把握され、経理部長が常勤理事会において報告し、執行状況について、半期毎には明細を添えた差異理由を経理部に報告するなどシステムが確立している。財務諸規程についても充分整備されている。教育研究比率は、帰属収入の20%を超え、過去3ヶ年は高い比率で推移している。

施設管理に関しては管理諸規程が整備され、その管理が適切に行われている。火災などの災害対策、防犯対策、コンピュータセキュリティ対策、環境保全対策に関しても充分な対策がとられている。

短期大学としては、安定的な学生確保がなされており、財務体質の健全さを保っている。

#### 評価領域 改革・改善

自己点検・評価については学則第3条に定められており、実施体制としては学長を委員長とした委員会が組織されている。

自己点検・評価および第三者評価規程など関係規程を整備し、3つの専門部会が置かれ、明らかになった課題は、次年度の事業計画に組込まれるシステムが構築されている。

評価の成果活用については意欲的な取組みと努力がみられる。